

福井せいじの 県政レポート

2013年 7月発行 No.4

福井せいじ事務所

〒020-0015 盛岡市本町通 1-9-39

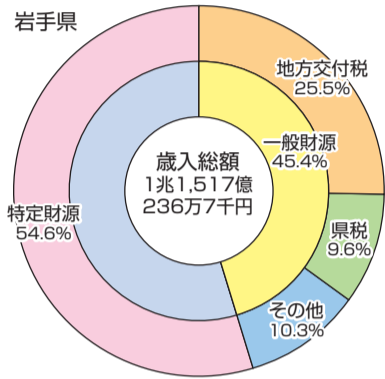
電話 / 019-651-5125

FAX / 019-651-5135

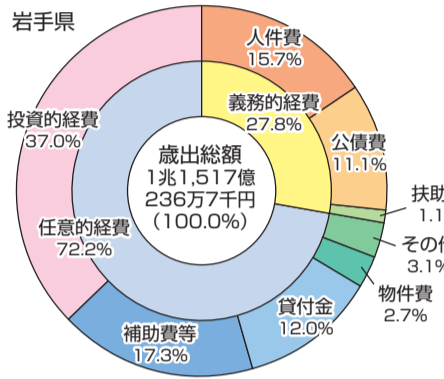
E-mail fukuijimusho@gmail.com

ホームページ www.fukuseiji.jp/

一般財源と特定財源の構成比
(平成25年度当初予算)



性質別歳出予算の構成比
(平成25年度当初予算)



常任委員会
(平成25年7月)

「まちを興す」
おこ
人のエネルギーを集め、復興を加速する！！

平成25年度がスタートして早5ヶ月が経過としております。本年度は復興加速年という事で災害公営住宅（市町村県が建設するアパートなど公営住宅）の建設や集団移転事業（浸水区域から安全な地域への住宅建設）などが推進されます。しかし数百年かけて築きあげた町を0から再生するには、人と人との結びつき、住む人が醸す文化、その土地の持つ意味性など、いかにして作り上げていくかが大きな課題だと考えます。町を作ってきたのは人と、時と、そこに起こった出来事です。それ故に町の再生の源はそこに住む人のエネルギーです。私達の使命は、人々が立ちあがり町づくりに挑む勇気を抱く環境をいかに作るかであると考えます。これからもその使命をしっかりと胸に抱き活動していきます。

平成25年度当初予算を家計に例えたら

1,151,702百万円を年収600万円の家計に例えたら (単位：千円)

家計・収入の内訳		家計	家計・支出の内訳		家計
年収			食料費・光熱水費		2,777
給料及びボーナス	6,000		基礎的な生活費		(2,568)
					(176)
					(33)
預金取崩し		1,684	活動費		5,552
へそくりなどによるやりくり			教育費、教養文化・投資等		
公的な所得補償等		7,501	増改築等		6,211
所得の再分配			投資		
借金		1,168	ローン返済		1,809
増改築資金・赤字の補てん			借金返済		
合計		16,349	合計		16,349

貯金は年収の0.108年分 65万円
ローン残高 2,040万円
借金残高は年収の3.4年分

企業進出の根拠

秋田国際経営大学視察の前日、昨年12月北上市に進出した佐藤木材工業を視察しました。佐藤木材工業は函館市に本社のある木材プレカット（住宅を造る際、柱や梁をあらかじめカットし組み立てるための凹凸などを加工する）工場です。人口減少が続く中、東北に新たな市場を開拓するために北上市に新工場を建設しました。何故北上市に工場を建てたのか？新工場の建設候補地は、大きな市場に近い仙台や材料の輸入木材の輸入港に近い大船渡なども考え調査検討したそうですが、①多くの市場に交通アクセスの利便性②地盤の強固さ（緻密な加工が必要なため）③多大な行政支援④地域（建設地）の明るさ、を根拠に現在の立地を選定したとのこと。多くの地域間で企業誘致合戦をしているが、企業を誘致するには企業がそこに進出する理由を備えなければならぬ。それぞれの地域の利点を磨き、その利点を求める企業を探し誘致することがお互いにいい関係を作り長く立地することにつながると思つた。

また現在Aさんの貯金は65万円、借金総額は2,040万円です。Aさんの家計の問題点は、収入面では給料以外で賄う金額が多い



旧盛岡短大跡地は民間売却の計画がありましたが、以前から地域の皆さんからは活動センターなどに活用できないかという意見が出されてきました。本年5月、城南地区の町内会の皆様を中心になり旧盛岡短大跡地利用促進期成同盟が結成され、6月28日岩手県に地域活動施設建設の旨の要望書を担当部長に提出した。盛岡市にも同様の要望書が提出されました。この要望書提出を機に私達県議会議員や市議会議員も地域活動施設建設に向けて活動を加速していきたいと思つた。

平成25年度岩手県の家計

平成25年度の岩手県一般会計（普通に県を運営するおカネ）予算をお知らせします。岩手県の平成25年度の収入である約1兆1,517億円を給料・ボーナス（県の歳入では自主財源等）600万円のAさんの家の家計に例えて説明します。Aさんの家庭では、食料費・光熱水費・基礎的な生活費（県の歳出項目では人件費・扶助費・物件費の一部に相当）などに約278万円、教育費や奥さんの習いごと（県の歳出項目では物件費、補助費、その他）などに約555万円、家などの増改築、庭の整備（県の歳出項目では投資（建設、災害復旧、維持補修）などに約181万円、合計1千635万円を1年間で使っています。しかしこんなにお金を使っている給料・ボーナスだけでは足りません。そこでAさんの家は給料・ボーナス以外に預金取り崩し（県の歳出項目では繰入金）約168万円、親からの援助（県の歳入では地方交付税、国庫支出金）などの役所からの補助750万円、そして借金（県の歳入では県債）が約1177万円など給料以外の補助で賄っています。

旧盛岡短大跡地を地域活動施設に！

県・市に要望書提出！！

旧盛岡短大跡地は民間売却の計画がありましたが、以前から地域の皆さんからは活動センターなどに活用できないかという意見が出されてきました。

事、支出面では住宅環境が整備されず増改築費が多くまた教育費など必ず使わなければならない支出の比率が多い事です。それ故に自由に使えるおカネがほとんどない状況です。
*「岩手県議会だより」の円グラフ
*「平成25年度当初予算を家計に例えたら」

中小企業が 岩手を元気にする！！

中小企業振興条例をつくる！



商工常任文教委員会
(平成25年7月)

岩手県の企業の99・8%が中小企業・小規模事業者、就業者の85・7%が中小企業・小規模事業者の会社で働いている。中小企業・小規模事業者の活性化なくして景気は良くなりならず私達の所得は増えない。また特定の産業だけが活性化されても全体が良くならない。そこで「中小企業振興条例を作ろう！」と委員会で提案しました。

県当局は他の県の動向や詳細を見て検討するとの事。産業全体を活性化する施策をどんどん立案し推進する事が岩手を元気にする！！

さあ来い！ 国際リニアコライダー (ILC)

県政レポートNo.3にも書きましたが、ずっと取り組んできたILC岩手誘致。その機運は高まっています。

県ILC推進協議会(会長・元持勝利県商工会議所連合会長)は6月29日に盛岡市で「県民集会」を開催。ドイツ・マインツ大の斎藤武彦教授と国立天文台理論研究部(東京都三鷹市)の都三鷹市の小久保英一郎教授の講演会を開催、同時に産学官が一層連携した取り組みを推進するためILC岩手誘致の県民決議を採択し



盛岡市での県民集会

の県民決議を採択し

すごいね(〆) 保育所待機児童 0ゼロ！

本年4月1日横浜市は保育所待機児童0を達成しました。私を取り組む重点項目の1つが保育所待機児童減少です。

少子化社会で子どもの数は年々減少していますが、女性の社会進出などで保育所ニーズが増しているのです。横浜市は林市長の公約で保育所待機児童を0にするため徹底的な取り組みを推進し、平成10-12年度の3年間で144か所、定員1万人を超える保育所を整備し目標を達成しました。その取り組みは、

た。また県内の小・中・高校での特別授業を開催し子どもたちの関心も喚起し、県民全体でのILC誘致の取組を展開する。国内候補地が今夏決定します。

復興の加速、建設による経済効果、新技術の発信、県民の科学・国際化への関心の高まり、等々。岩手を大きく変えるILC誘致に全力を尽くします。

大ヒット商品 !!(〆)!!

6月13日銀座歌舞伎座前岩手県アンテナショップ、いわて銀河プラザを訪問しました。この4・5月は売上・入店客数とも非常に好調との事。歌舞伎座の開業効果や、アペノミクスで景気が上向き銀座に人がブラブラするようになったという。

注目商品を伺うと、



“歌舞伎座せんべい”
(岩手屋)



横浜国大構内にある森のルーナ保育園

認可保育所の定員拡大の他に横浜市が独自の基準施設、横浜保育室や、家庭的保育事業、幼稚園預かり保育、など多様な保育資源の整備・活用を徹底推進していた。「やるな」横浜市。岩手も負けないぞ！」と意欲を新たにしました。

今、注目！ 秋田国際教養大学

5月29日県議会常任委員会で、秋田市郊外に立地する今話題の国際教養大学を視察しました。今年2月急逝した中嶋学長(前東京外国語大学学長)が現代の松下村塾を作り世界で活躍する人材を育成するという理念で平成16年開学。

- ①1年生は全寮制
- ②全授業を英語で行う
- ③1年間の海外留学の義務付け



“まめぶ”



“骨取りさんま”
(三陸鉄道・久慈市・イオンの共同開発)

・・・というように県北・北三陸が頑張っている(〆)

歌舞伎座せんべいは、歌舞伎座・東京駅でも飛ぶように売れている！骨取りさんまはイオンの大ヒット商品！！まめぶは1人3個までの限定販売！！

- ④海外提携大学からの多くの留学生を受け入れ外国文化を日常で経験
 - ⑤24時間365日オープン図書館
- など、特色ある教育で時代が求める人材を育成し就職率100%！全国の企業が注目する大学です。
- 学内の学生と話しましたが、皆この大学で勉強し世界で活躍したいという強い思いを持って全国からやってきた多くの学生に出会いました。岩手大学を卒業し通訳を目指す国際教養大学の教授の下で勉強したいという学生もいました。

僕の学生時代と違って、若いのに目的を持ちしっかりと歩んでいると感じました。

一方で、英語だけの授業で理解深まるか？留年率の高さ、秋田県内の学生の少なさ(20%以下)など、課題も感じました。

しかし地方からの様々な尖った(とが)つた)チャレンジが日本を元気にする事を確信しました。

尖がれ(とんがれ) 地方！！！！



企業誘致も重要だが、地域で個性ある商品を製造し、大きな市場でヒットさせることも地域活性の大きな原動力となる。

持ってくるだけではなく、出してやることも考えていこう！

常思旬感

私が常に思ふ事や時(旬)に感じたことを徒然綴った事柄です。

「あまちゃん」

NHKの朝ドラ「あまちゃん」が絶好調だ！なぜこんなにもヒットしているのか？主人公能年玲奈や小泉今日子、宮本信子、薬師丸ひろ子など実力ある役者の個性あふれる演技、宮藤官九郎の素直で心をくすぐる脚本などもある。しかし僕がこのドラマを観ていて感じるのはふるさとの力だ。東京で自分を見失っていた高校生天野アキが母親と一緒に母親のふるさと北三陸に戻ってくる。そこでふるさとの人々との出会い、ふれ合い、母や祖父の過去の思い出、大自然に抱かれ、自分がやりたい事を見つけ自分を発見していく。純粋さと前向きな心がぐんぐんと育つ(〆)。

僕は、ふるさとは人々を元気にしてくれるエネルギーが溢れている、そして自分を発見する魔法が潜んでいると思うのだ。全ての人が様々な可能性を持っているが、厚い殻で覆われている場合がある。その可能性を覆っている殻を割ってくれる何かがあるさとはある。自分を見失っていたアキが母のふるさとで自分を受け容れられ、自分を発見し可能性にチャレンジし始める。ふるさとの力とは、受け容れる力、なのだと思う。そんなふるさとの受け容れる力を描いているから、あまちゃんの人気があるのだと思う。

ふるさとで自分を取り戻したアキが、アイドルになるために東京に出ていく時、母親が言う。「アキが変わったのではない。アキが周りの人々を変えたのよ。」と。そう本来の自分を取り戻していきつうちに、アキの周りの人々がアキを通して周りの人々がまた元気を取り戻し、そこにふるさとのエネルギーが集積します。そしてアキの祖母である夏ばっばは言う。「ここが一番好きだから、どこまでも行かぬえ、ここから出て行かぬえんだ。」そんな気持ちがふるさとの力を作る。ここにいる僕たちが、エネルギーが溢れるふるさとを作っていく(〆)。